

平成30年度 大阪府資金保管・運用実績

本府では、引き続き厳しい財政状況の中、公金の安全性を確保しつつ、より有利な運用を行うため、「大阪府資金保管・運用方針」に基づき、効率的な管理に取り組んでいます。

平成30年度の保管・運用実績は以下のとおりです。

■保管・運用実績の概況概要

日本銀行が「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」（平成28年1月）及び「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」（平成28年9月）を導入して以来、市場金利は低位で推移するとともに、流通市場（セカンダリー市場）から国債等の債券を購入することが困難となるなど、平成30年度も運用環境は厳しい状況が継続しました。

このような中、平成28年度より開始した発行市場（プライマリー市場）からの債券の購入を継続するとともに、平成29年度より、国債等に加え財投機関債の一部を購入対象に追加したことで、債券運用額は増加しました。

以上の要因により、定期性預金を含めた本府全体の資金運用額は前年度に比べ減少したものの、運用期間の長い債券の残高が増加したことにより運用利回りが上昇し、運用利息の総額は増加しました。

主な保管・運用方法

当面の支払いに充てる必要のある資金等については、指定金融機関（公営企業会計は取扱金融機関）の当座預金等で保管しました。

運用可能な資金については、借入債務等との相殺により保全されている定期性預金又は国債等の元本の償還が確実な債券による運用を行いました。

保管・運用実績(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

平成30年度の運用種別ごと1日あたりの平均残高及び年間利息は、第23表のとおりです。

第23表

運用種別ごと1日あたりの平均残高及び年間利息

(各項下段()は平成31年3月31日現在高)

資金種別	運用種別			利息※2 平均利回り 万円	保管 (当座預金等) ※3 億円
	定期性預金 運用	債券 運用	計 億円		
歳計現金・ 歳入歳出外現金※1	1,361 (1,262)	603 (863)	1,964 (2,125)	14,489 0.074%	5,905 (7,446)
基金※4	0 (0)	103 (98)	103 (98)	7,797 0.757%	8 (8)
公営企業会計に 属する資金※5	73 (0)	1 (10)	74 (10)	47 0.006%	384 (531)
平成30年度	1,434 (1,262)	707 (971)	2,141 (2,233)	22,334 0.104%	6,297 (7,985)
対前年度比	67.9% (77.7%)	208.6% (221.7%)	87.4% (108.3%)	143.0% (162.5%)	122.6% (97.8%)

(下段()は平成30年3月31日現在高)

平成29年度	2,112 (1,624)	339 (438)	2,451 (2,062)	15,620 0.064%	5,135 (8,165)
--------	------------------	--------------	------------------	------------------	------------------

- ※1 歳計現金とは一般会計及び特別会計に属する地方公共団体の歳入歳出に係る現金をいい、歳入歳出外現金とは契約保証金など歳入歳出予算として予算に計上されない現金のことをいう。また、歳計現金・歳入歳出外現金及び基金(※4を除く)は歳計現金で一括運用している。
- ※2 利息は期間中の受取額ではなく、4/1~3/31の期間中の運用利息を日割り計算して算出。
- ※3 当座預金等とは、支払い準備等にあてるため保管している当座預金、普通預金などの流動性預金。
- ※4 基金(公営企業会計に属する基金を除く)に属する現金を歳計現金で一括運用せずに運用しているものを表示(日本万国博覧会記念公園基金)。
- ※5 公営企業会計に属する基金を含む。
- ※6 運用・保管を合計した全資金の利回りは、平成30年度0.0265%(平成29年度0.0206%)。

〔 <参考> 平成31年3月末現在の都市銀行店頭表示金利(全国平均)
定期性預金(大口定期預金) 0.010%[1ヶ月]0.010%[3ヶ月]0.011%[1年] 〕